

## Diabetic Empowerment Scale 日本語試作版の検討

河村 一海 稲垣美智子 村角 直子  
小泉 順二\* 野村 英樹\*

## KEY WORDS

Diabetic Empowerment Scale, Self Care, Self Efficacy, Empowerment

## はじめに

近年、糖尿病患者教育において、自己管理は患者自身の自信が重要であるとの報告が多い<sup>1)~5)</sup>。しかし自己管理を実行する上で患者が自己管理のための行動を認知レベルで受容していることが前提であり、そうでなければ行動をとることができないと考えられる。そこで患者の自己管理能力を高めるために、看護者には患者自身に備わっている自己効力感と受容態度をあわせて把握していくことが必要とされる。しかしながらこれまで我が国において糖尿病自己管理に関する受容態度を把握する方法の報告はない。

そこで我々は米国ミシガン大学糖尿病研究・トレーニングセンターで開発された「Diabetes Empowerment Scale」(糖尿病に対する姿勢に関する質問票)<sup>6)</sup>を我が国でも使用することが可能かどうかを、原作者の許可を得て翻訳した質問票(「Diabetes Empowerment Scale」日本語試作版、以下DES)を教育入院患者に使用し検討した。

この質問票は3つの下位尺度からなる計28項目より構成されている。1つ目の下位尺度は「糖尿病の心理社会的状況の管理」(以下尺度I)で9項目から構成されており、2つ目は「変化することに対する不満や準備の査定」(以下尺度II)で9項目、3つ目は「糖尿病のゴールを設定し成就すること」(以下尺度III)で10項目から構成されている(表1~3)。各項目は「全くその通りである」から「全くあてはまらない」の5段階で1~5点を与え、総合得点28~140点(尺度I:9~45点, 尺度II:9~45点, 尺度III:10~50点)である。

今回この質問票を使用し、原著を直訳したため質問文の意図する内容が患者に十分には理解されず、

また日本と米国の文化的背景、生活習慣の違いから生じたと思われる日本人糖尿病患者に共通した反応を認めたので報告する。

## 方 法

## 1. 対象

金沢大学医学部附属病院内分泌・代謝内科に、教育入院中の糖尿病患者10名を対象とした(表4)。平均年齢は59.5±15.4歳、平均加療期間は9.4±8.1年であった。

## 2. 調査方法

対象に直接面接法でDESを行い、同時に質問票に関する意見や感想を聴取した。

## 4. 分析方法

DESの総合得点および3尺度の得点を算出、また質問票に関する意見や感想を記述し、特徴となる性質を導き出し、分析を行った。

## 結 果

## 1. DESの得点

DESの平均得点は総合得点が103.9±13.2点、尺度Iが34.3±3.9点、尺度IIが33.9±6.1点、尺度IIIが35.7±6.3点であった。

## 2. 質問票に関する意見および感想

## 1) 質問票全体における印象

対象にとってイメージしにくいおよび理解困難と感じる表現と概念がいくつかあり、それらに対して対象は、自分の日常生活での自己管理の具体的な場面を思い起こしながら答えていた。また自分で思い起こせない対象には、質問者が具体的な場면을提示することによって、回答可能であった。

金沢大学医学部保健学科

\* 金沢大学医学部附属病院総合診療部

表1 Diabetes Empowerment Scale 日本語試作版 尺度Ⅰの項目

項目番号	質問内容
18	糖尿病に関連するストレスに打ち勝つ、前向きな方法を知っている
20	糖尿病に関連するストレスに、上手に打ち勝つことができる
21	糖尿病を抱えて自己管理をする上で必要な支援を、どこで得られるか知っている
22	必要ときには、糖尿病を抱えて自己管理をする上で必要な支援を求めることができる
23	糖尿病の管理を自己援助することができる
24	どうすれば糖尿病管理への動機を持ち続けることができるかを自覚している
25	糖尿病の管理に対して自分自身を動機づけることができる
26	自分に合った自己管理上の選択を行えるほど、糖尿病について熟知している
27	自分に合った自己管理上の選択を行う上で、自分自身がどういう人間なのか自覚している

(ミシガン大学糖尿病研究・トレーニングセンター開発、野村英樹訳)

表2 Diabetes Empowerment Scale 日本語試作版 尺度Ⅱの項目

項目番号	質問内容
1	糖尿病の自己管理で、どの点に自分が満足しているか自覚している
2	糖尿病の自己管理で、どの点に自分が満足できないか自覚している
3	糖尿病の自己管理で、どの点を自分で変えられるか知っている
4	糖尿病の自己管理で、どの点を自分では変えられないのかを知っている
15	糖尿病を抱えていることを自分がどう思っているか、話すことができる
16	自分の糖尿病を管理することを自分がどう思っているか、話すことができる
17	糖尿病を抱えていることが、どのように生活のストレスになるかを自覚している
19	糖尿病に関連するストレスに打ち勝つ、好ましくない方法を知っている
28	糖尿病の自己管理方法を変えることが、自分の時間を費やすに値することかどうかを判断できる

(ミシガン大学糖尿病研究・トレーニングセンター開発、野村英樹訳)

表3 Diabetes Empowerment Scale 日本語試作版 尺度Ⅲの項目

項目番号	質問内容
5	現実に達成可能な糖尿病管理の目標を設定できる
6	糖尿病管理のどの目標が、自分にとって最も重要かを自覚している
7	自分が糖尿病管理の目標に到達する上で、自分の持つ長所または短所を自覚している
8	自分の目標に到達するために、良いアイデアを思いつくことができる
9	自分の糖尿病の管理目標を基に、実行可能な計画を立てることができる
10	一度決心すれば、自分の糖尿病管理目標を達成することができる
11	どんな障害が、私が糖尿病の管理目標に到達することを阻害するか知っている
12	糖尿病の管理目標に到達する上での障害に打ち勝つため、種々の方策を考えることができる
13	糖尿病の管理目標に到達する上での障害に打ち勝つため、種々の方策を試してみることができる
14	糖尿病の管理目標に到達する上での障害に打ち勝つための方策の中で、どれが自分にとって最も効果的か判断できる

(ミシガン大学糖尿病研究・トレーニングセンター開発、野村英樹訳)

自己管理の場面を思い出すことの可否は、対象の年齢や性別、過去の教育入院歴、治療法、最終学歴との関係よりもむしろ加療期間と関係があり、加療期間が長い対象に理解困難と感じる表現がなかった

(表5)。

2) イメージしにくい表現

「動機」「動機づける」という表現の意味がイメージしにくいという意見があった。具体的には下記の

表4 対象の背景

対象	性別	年齢	病型	加療期間	過去の教育入院歴	治療法	最終学歴
1	男	32	Ⅱ型	1ヶ月	なし	インスリン	高校卒
2	女	51	Ⅱ型	1年	なし	経口血糖降下薬	高校卒
3	男	76	Ⅱ型	3年	なし	インスリン	中学卒
4	男	78	Ⅱ型	3年	1回	経口血糖降下薬	中学卒
5	男	66	Ⅱ型	4年	2回	経口血糖降下薬	高校卒
6	女	51	Ⅱ型	10年	なし	インスリン	高校卒
7	女	64	Ⅱ型	16年	なし	インスリン	中学卒
8	女	40	Ⅰ型	17年	3回	インスリン	高校卒
9	男	66	Ⅱ型	20年	1回	インスリン	高校卒
10	男	71	Ⅱ型	20年	1回	インスリン	中学卒

表5 理解困難と感ずる項目及び表現

対象	理解困難と感ずる項目	理解困難と感ずる表現	理解するための方法
1	1	糖尿病の自己管理で、どの点に自分が満足しているか自覚している	「満足しているかないのか」を聞いているのか満足していることを前掛 「それがどの点か」を明確にすることで回答された
	23	糖尿病の管理を自己援助することができる	表現の置き換え
2	23	糖尿病の管理を自己援助することができる	表現の置き換え
	25	糖尿病の管理に対して自分自身を動機づけることができる	表現の置き換え
3	2	糖尿病の自己管理で、どの点に自分が満足できないか自覚している	「満足している状態」「満足していない状態」を具体例を挙げて説明
	23	糖尿病の管理を自己援助することができる	表現の置き換え
4	1	糖尿病の自己管理で、どの点に自分が満足しているか自覚している	表現の置き換え
	21	糖尿病を抱えて自己管理をする上で必要な支援を、どこで得られるか知っている	支援の意味について「家族の」支援とする場面をイメージして回答さ
5	2	糖尿病の自己管理で、どの点に自分が満足できないか自覚している	「満足している状態」「満足していない状態」を具体例を挙げて説明
	21	糖尿病を抱えて自己管理をする上で必要な支援を、どこで得られるか知っている	必要な支援についてイメージ化できるように説明
6	21	糖尿病を抱えて自己管理をする上で必要な支援を、どこで得られるか知っている	表現の置き換え
	23	糖尿病の管理を自己援助することができる	表現の置き換え
7	特になし		
8	特になし		
9	特になし		
10	特になし		

2項目であり、それは項目24「どうすれば糖尿病管理への動機を持ち続けることができるかを自覚している」、項目25「糖尿病の管理に対して自分自身を動機づけることができる」で使用されていた。

### 3) 理解困難な概念

「満足」「自己援助」という概念が理解困難とされる意見があった。「満足」については項目1「糖尿病の自己管理で、どの点に自分が満足しているか自覚している」、項目2「糖尿病の自己管理で、どの点に自分が満足できないか自覚している」で使用されていた。また「自己援助」については、項目23「糖尿病の管理を自己援助することができる」という箇所で使用されていた。

### 考 察

今回DESを日本人患者に使用したところ、3つの尺度における得点に大きな差は認められなかった。この質問票で測定を試みているエンパワーメントは、看護界では「個人が自己の生活をコントロール・決定する能力を開発していくプロセス」を意味するものとして使用されている<sup>7)</sup>。清水はエンパワーメントという概念の特徴の一つとして、個人やコミュニティといった集団の大きさに応じたいくつかのレベルに分けて介入や測定が行われている点を指摘している。そして個人レベルのエンパワーメントとは、一個人が個々の生活に対して意志決定をし、統御できるようになる、またはできていると感ぜられるようになることであり、それが「個人的・心理的エンパワーメント」と呼ばれているということも指摘している<sup>8)</sup>。DESで測定しようとしているエンパワーメントは個人的・心理的エンパワーメントであると

考えられる。すなわち DES の 3 尺度がそれをあらわしているのであれば、日本人患者は日常生活の中で心理社会的状況を管理すること、変化することに対する不満や準備を査定すること、糖尿病のゴールを設定し成就することという 3 つの側面においてのエンパワーメントのバランスがよいということが示唆される。今回は対象数が少なかったことから、この結果が日本人患者一般の結果を示唆しているとは断定できないので、今後対象数を増やして検討する必要がある。

次に質問票全体において、米国で作成されたものを日本語に直訳したことから、質問項目での表現が抽象的になり、そのため対象がイメージする場面もさまざまとなったことが考えられる。また、質問票の作成者があいまいな表現を許さない西洋的思考過程をする米国人であり、その回答者がその反対の日本の思考過程をする日本人であったことも項目内容を理解困難ととらえた理由と考えられる。この点については加療期間が長い患者の方がより日常生活場面をイメージしやすいのではないかと考えられ、それが回答へのバイアスとなるともいえる。今後このようなバイアスを予防するためにも日本語での表現を再検討し、加療期間に関係なく、どのような対象でも回答に影響しないような表現をしていく必要がある。

また DES の「動機」「動機づける」という言葉が理解されにくいという結果であった。この点に関しては、これらの言葉が教育用語としては一般的ではあるが、日常の診療場面で使用されることが少ないため、対象にとっては聞き慣れない言葉であったのではないかということが推測された。今後対象に理解しやすかつ同じような意味をもつ表現について考慮していく必要がある。

理解困難な概念として「満足」「自己援助」という概念があげられたことについては、「日常生活において自分が満足している状態を理解できない」ことや「『自己を援助する』ということがどういうことか理解できない」ため、質問で問うていることの

意味が理解されないのではないかと推測された。これらの概念についても、満足するという状態を理解できるための説明を質問の中に追記したり、概念を表現できかつ対象が理解できる言葉を使用するように検討していく必要がある。

#### まとめ

日本人糖尿病患者の自己管理に対する受容態度の評価を目的に DES を使用するにあたり、質問項目の「動機」「動機づける」という言葉がイメージされにくい、「満足」「自己援助」という概念が理解できないという結果となり、今後これらの言葉や概念の取り入れ方を検討していく必要があることが示唆された。また質問項目で用いる表現は、加療期間に関係なく、どのような対象でも日常生活場面を思い起こすことができるような表現を検討していく必要がある。

#### 文 献

- 1) 安酸史子：糖尿病患者教育と自己効力. 看護研究, 30: 473-480, 1997.
- 2) 木下幸代：糖尿病の自己管理を促進するための教育プログラムの作成. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 2(2): 110-117, 1998.
- 3) 水野智子 他：糖尿病患者の自己管理における知識の活用と看護援助について. 日本看護科学会誌, 14(3): 254-255.
- 4) 藤田君文 他：成人糖尿病患者の食事管理に影響する要因と自己効力感. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 4(1): 14-22, 2000.
- 5) 松田悦子 他：2型糖尿病患者の食事自己管理に対する自己効力と結果予期. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 5(2): 99-111, 2001.
- 6) Robert M. Anderson. et al. : The Diabetes Empowerment Scale-A measure of psychosocial self-efficacy. Diabetes Care., 23 : 739-743, 2000.
- 7) 野島佐由美：エンパワーメントに関する研究の動向と課題. 看護研究, 29(6): 453-464, 1996.
- 8) 清水準一：ヘルスプロモーションにおけるエンパワーメントの概念と実践. 看護研究, 30(6): 453-458, 1997.

## Study of Diabetic Empowerment Scale (Japanese Version)

Kawamura kazumi, Inagaki Michiko, Murakado Naoko  
Koizumi Junji, Nomura Hideki